

# 第3回交通まちづくり懇談会 全体会議 議事要旨

日 時：平成 17 年 1 月 18 日（水）

場 所：宇都宮市総合福祉センター 9 A 会議室

参加者：森本、古池、奥備、森崎、石川、小林、藤平(元)、小野、阿島、柳田、松本、  
藤平(昌)、小針、梅林、稲葉、加藤、山本、古谷、久保

## [ 次第 ]

開会の挨拶（事務局）

座長挨拶（座長）

各班の発表（交通まちづくりについて）

次回の予定について（事務局）

閉会の挨拶（事務局）



懇談会の様子

## < 討議の方法について >

座長： 前回は実際の体験でどんな問題があるのかなど、現状の課題認識を行った。まず将来のイメージ像について議論する。中長期的な着地点について、宇都宮の都市圏像・町の周辺がどういう風になればいいかを 30 分程度議論して欲しい。2 つめは空間的整理に関するもの。宇都宮を広域な都市圏で考えたとき、何を考えたらいいか。都市圏を面として捉え、それぞれのエリアにどんな特色があり、どう有機的につなげるのかを議論する。3 つめは公共交通について。何人乗るかという「量」の議論ではなく、どんな人が乗るか、なぜ乗ったかという「質」の議論を

して欲しい。以上3つの提案について、グループで約1時間議論して発表して欲しい。後半は、発表の議論をベースとしながら、全体討議を行いたい。

<各班の発表>

A班：交通、まちづくりの2点について、議論を行った。

交通に関しては「いつでもどこでもだれでも乗れる公共交通」、速く移動できる、料金や時刻表がわかりやすい、利用しやすいという意見があった。また「魚の骨のような」公共交通網で、基幹交通が背骨で小骨はバスなど。料金は、安くて定額が良い。宇都宮市内のみでなく、茂木や市貝へも100円で行けるようになれば良い。また、環境に優しい公共交通、歩車道を分ける、一人で車に乗る人に時間帯で規制をかける、などの意見があった。これらの意見をまとめて「いつでもどこでもだれにでも安くて利用しやすい公共交通」というキャッチフレーズを作成した。

まちづくりに関しては、それぞれの市町村から来た人に、それぞれのいいところを話してもらった。市貝町は人情に溢れる、自然の豊富な、教育が充実しているまち、グリーンツーリズムなどがあった。茂木町は高齢者にやさしい、住みよい・住んでよかった、地域交流のある、都会の人の「いなか」となるようなまち、まちづくり事業の活性化、などの意見があった。宇都宮市は、何度でも来たくなる、中心市街地に活気、明るく美しく安全、女性も気軽に買い物、学生が興味を持てる、郊外でも中心街でも楽しめる、まち並みに魅力があるまち。これらのまとめとして、市貝町・茂木町は、都会の人の「いなか」になるまち。宇都宮では平日に仕事をして、土日は市貝町・茂木町に来てもらうなど。

まとめると、「交流と助け合いのまち」「お酒を飲んだら帰って来れるまち」となった。

B班：前回の議論で、交通では「わかりやすさ」、まちづくりでは「魅力」というキーワードが設定されており、これらをベースに議論を行った。まず各自が思っていることを述べ、問題点を再認識して中長期的・短期的な目標設定というまとめ方を目指したが、議論が白熱してうまくいかなかった。一つは、まちと交通を考えた場合、まちを考えるのが先であり、交通はそれを支えるものであること。キャッチフレーズとしては、「また来たいまち」、宇都宮近郊では住みやすいまち、楽しさ、まちの案内がわかりやすいまち、などの意見があった。宇都宮近郊の人からは、昔は宇都宮に来るのが楽しみであったという話があった。そのような楽しさが今の宇都宮にはあるのか？宇都宮城やイベント広場の整備で、また来たいまちになっていくのか。市内では、病院やスーパーが近くにある、またはちょっと遠くても公共交通ですぐに行けるなど。長期的な案だが、市の中心部に病院併設のシルバーマンションを建設する案があった。こういった方向でまちづくりを考えると良い。

交通に関しては、現状の課題としてバスの乗り方・路線がわかりにくい、バス路

線が減っている、デマンドバスに可能性、などの意見があった。介護タクシーも使  
いやすくなる、周辺の交通網が整備されていくなどもあった。バスは低料金化し、  
100円バスをさらに拡張する、バス事業者へ助成を行うなど。将来的にはP & Rの  
導入、公共交通を前提としたときの、車からの乗り換えを促す。車はなくならな  
いので、公共交通と併存させる方法を探す。車禁止ということにはならない。道路や  
橋も必要。公共事業の中でうまくやる。以上のような意見があった。

キーワードとして、「わかりやすい」「利用のしやすさ」というまとめを行った。

C班：キャッチフレーズは「親子丼方式の交通まちづくり」。親子丼方式とは、交通とま  
ちづくりの関係で、まちづくりの目標と手段は鶏と卵の関係だということ。グラン  
ドデザインはどちらが先か後かの議論ではなく、親子丼のように一緒のもの。まち  
づくりの手段としての交通が、まちづくりの目的でもあるということ。

ここで、意見を交通とまちづくりでグルーピングした。交通のカテゴリではネッ  
トワーク、共存性と多様性、市民や都市圏外の利用者が最適な交通手段を選べるこ  
と、車・タクシーのみでなく他の交通機関があっても良い。今はいろいろな交通機  
関があっても、接点がつながれていない。ゆえに、選択制が狭まる。つながれば多  
様性が広がるし、車との共存にもつながる。郊外では、日光線の新駅でP & Rを行  
い共存多様性を広げること。清原地区からの委員は、地区内交通の移動手段が狭ま  
るのは困る。車より公共交通は敷居が高く、ストレスを感じる。それは必要な情報  
が与えられていない、定時制が確保されていないなど。もう少し安心して公共交通  
を利用できるような環境を作るべき。乗り心地も考える。郊外ではバス本数が少な  
い、安心感の欠如している。以上のような意見があった。

まちづくりでは、環境面の意見が多かった。環境に良いまちづくりを目指す。ピ  
オトーブ的なモデル地区をつくるなど、環境を全面に押し出したまちづくりもあ  
って良い。景観では駅周辺はビルばかり目立ち良くない、シャッター街の問題など  
の意見があった。2つめは人を中心としたまちづくり。公共交通について、歩けるこ  
と、面的な歩くルーティングの整備など、

以上のカテゴリを踏まえ、親子丼方式のランドデザインを描いても良いだろう。  
また、各自治体でも公共交通の話があるが、鹿沼市ではミニバスを鹿沼市内でも拡  
大、ネットワーク化した方が良い。都市間ネットワークでは、鉄道・バスを主眼と  
して、ある地域のみ突出するのではなく、芋づる式にほかへ影響するまちづくり、  
などの意見もあった。人と人との交流という観点で、もう少し考えても良い。都市  
圏で緩やかに手をつないだまちづくりもあって良いだろう。

#### <全体討議>

座長： 残りの時間で全体討議をし、最後にまとめを行いたい。他のグループの発表に  
対して何か意見はあるか。

参加者：いろいろな交通手段を使って円滑に移動できるというのが、例えば歩行者優先、自転車優先道なども考えられるだろう。

参加者：C班で交通を目的にするという話があったが、なぜそう考えたのか。具体的に教えて欲しい。

参加者：歩くことも交通である。「まち歩き」も、まちの活性化という目的になる。手段でなく昇華したかたち。まち歩きからはコミュニケーションも生まれる。

座長：これは交通派生需要という。交通は本源的に需要ではなく目的にならないが、観光などは目的になる。都市では歩いて楽しむことということも目的にできるということ。

参加者：交通を目的にするということについて。交通は人と物を運ぶことだが、大事なのは交流と情報発信である。宇都宮の情報を発信するような機能が交通の生かし方であるというように目的化できるだろう。

参加者：親子丼方式の交通まちづくりについて、超現場主義で進めていくべき。それぞれの現場にいる人たちが、生の意見を持ち寄ることが大事。体験した上での意見を出し、市民を巻きこむような交通まちづくりが良い。バス事業者を交えて話し合いができれば良い。

#### <まとめ>

座長：前回の懇談会では現状の問題点がたくさん出されたが、今回はその現状をきちんと把握し、日常生活の問題点を整理・体系化することにより、当面の提案を考えた。最終的には将来の目標像に向かい、できればみんながバラバラでなく同じ方向に向かって考えて行ければいい。

A班の「いつでもだれでも安く」はモビリティでいうと当然のことで、わかりやすい。B班は交通まちづくりを支えるもの。まず何が必要なのかの目標像を考えて、その後で交通を考えても良いということ。C班は交通とまちづくりを同じように考えるということを提案している。私から見るとB班・C班は同じような方向性に見える。

様々なキーワードが提出されたが、将来の交通計画のキーワードは網羅されているように感じた。まちの連携と都市の将来像ということでいえば、まちの特色を出して、それを互いにつなぐのが交通手段であるということ。各班のキーワードで重なるのは、魚の骨、交通自身が目的、ネットワークなどの交通体系の問題。ここに樹木の例をあげたが、基幹交通が木の幹で、りんごなど果物がまちの魅力にあたる。

事務局：次回、最後のまちづくり懇談会を、2月17日(木)13:00～15:00に予定している。

以上